

普及活動情勢報告（令和元年 8 月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

「農福連携」を知る！学ぶ！



障害者の特性と農業従事の可能性を説明

高知市農福連携研究会（7月1日発足）では、まずは農福相互の理解を深める活動を行っています。7月11日の高知市営農技術会議（約50名参加）と8月2日の春野営農連絡会（19名参加）において、農業関係職員を中心に研修を行いました。また、7月31日のJA高知県青壮年部春野本部学習会（41名参加）で、農家に対して農福連携のPRを行いました。講師は、普及所と高知市福祉管理課が協力して担いました。

これから更に農家への理解を深めるとともに、福祉サイドに農業を知って頂くためのセミナー開催などを計画しています。

今年も開催、新規就農者等を対象に「キュウリ基礎研修」



「経営管理研修」では、普及員と新規就農者によるW講師

今年も、キュウリの新規就農者や研修生を対象とした「キュウリ基礎研修」が始まりました。7月31日から毎週1回の全5回を計画しており、うち3回は普及所が講師を務めます。

より多くの方に学んで貰えるよう、はちきん農業大学やJA青壮年部春野本部と協力し、これまでに3回を開催。参加者数は延べ57名で、うち新規就農者15名・研修生3名となっています。

毎回アンケートを取り、経営管理の研修では「PDCAを多く回していきたい」など前向きな感想を頂いています。

あと2回、IPM技術や環境制御技術も含めた栽培研修を開催し、新規就農者等の技術向上を促していきます。

露地ショウガほ場での低濃度エタノール土壌還元処理



14aのほ場で作業時間は3時間

8月8日から9日にかけて、マル朝生姜生産組合の生産者ほ場で農業技術センター協力のもと、低濃度エタノール土壌還元処理の実証を行いました。8日はポリフィルムの被覆に3時間かかりました。9日の処理当日もトラブルはなく、順調に作業は終了しました。昨年処理したほ場は、今のところショウガに青枯病は発生しておらず、生産者からは「今回処理したほ場の隣のほ場も処理したい」と前向きな意見をいただきました。

来年は、ショウガ栽培を再開する予定です。引き続き病害の発生状況等効果について、情報提供に努めます。

薬剤抵抗性病害虫対策について～ナシ若手の会対象に栽培講習会～



園での学習

8月5日、針木地区で新高梨を栽培している30代の若手生産者ら4名を対象に栽培講習会を開催しました。

この若手の会は、現地研修や栽培知識を深めることなどを目的としています。今回は薬剤抵抗性病害虫対策として、薬剤の系統や、病害虫抵抗性の発生メカニズムについて説明しました。生産者から、「うちの園でも薬剤が効きにくくなった害虫が発生している」と納得の声が上がっていました。その後、栽培上で疑問に感じていることを質疑応答しました。

普及所では、経験値の浅い栽培者への技術支援にむけ、このような知識を深化させる学習会や現地研修などを行い、梨産地の振興を図っていきます。

鏡むらの店で秋作に向けた栽培講習会



普及員による2時間講習

7月25日に、直販所「鏡むらの店」の青果部会員16名を対象に野菜栽培の講習会を行いました。品薄になる野菜品目と時期に合わせた講習会を計画しており、今回は、秋作野菜に向けた土づくり・施肥の講習を行いました。参加者ごとに栽培品目や栽培形態も露地・ハウスなど異なりますが、2時間を熱心に聴かれて、「pHが低い場合の対処方法は？」など質問が出されました。

次回は、9月中旬に農薬の効果的な使い方などを中心に栽培講習会を行っていきます。

露地ピーマン現地検討会の開催



豪雨の中でも活発な
意見交換

7月19日、JA高知県春野特産部会にて露地ピーマンの現地検討会が開催され、農家6名が参加しました。生育状況を確認しながら3ヶ所のほ場を巡回しましたが、概ね生育は順調でした。普及所からは、今年1月から露地野菜で適応拡大となったスワルスキーカブリダニや、その他市販天敵および土着天敵について説明しました。今年度から2名の農家がスワルスキーを導入しており、生産者の関心は高く、「導入してからアザミウマによる被害が減ってきたようだ」など積極的な意見交換が行われました。

8月から赤ピーマンに切り替わりますが、最後まで安定した栽培管理が行えるよう巡回などで情報提供を行って行きます。